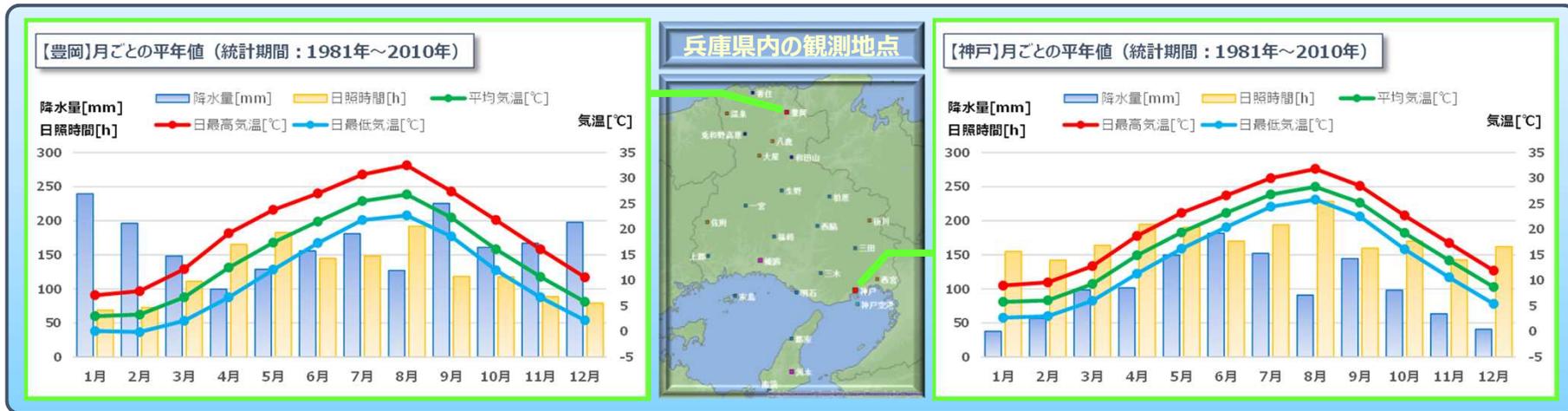


兵庫県内の気象・地勢の特性



地勢と気候

兵庫県は、本州のほぼ中央に位置し、日本の標準時子午線（東経135度）が通っています。

県の東は京都府と大阪府、西は鳥取県と岡山県に接し、北部は日本海、南部は瀬戸内海に面しており、本州では青森県、山口県と共に2つの海に面する数少ない県です。

兵庫県のほぼ中央を東西に横切る中国山地を境に、北側は冬に降水量の多い日本海側気候区に、南側は乾燥した晴天が続く、雨も少なく温和な気候の瀬戸内気候区に分けられます。また、南側の地域は、大阪湾に面し都市気候の特徴も持つ南東部と、播磨灘に面し典型的な瀬戸内気候区である南西部、そして太平洋側気候の特徴も現れる淡路島の3地区に分けられます。

日本海側気候

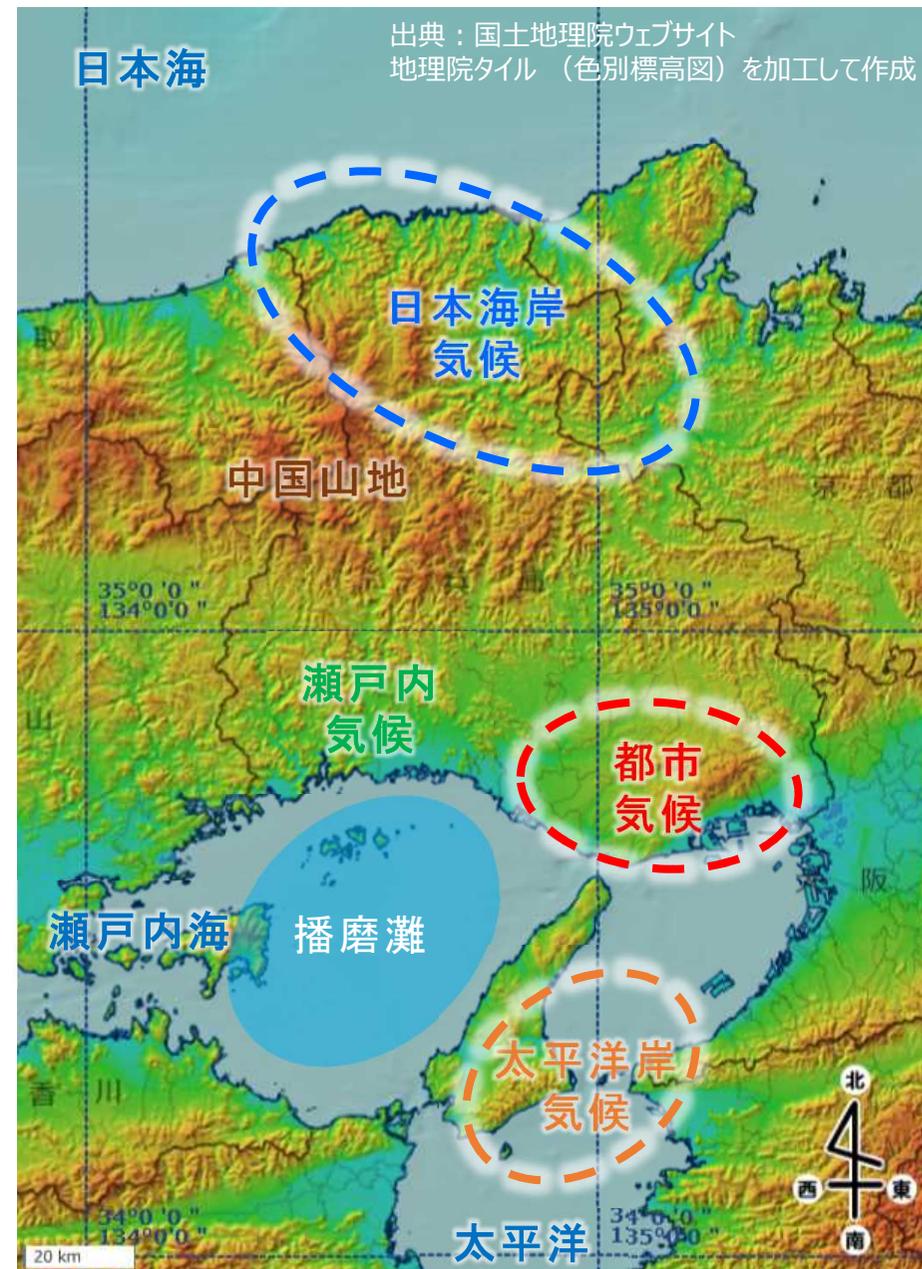
冬季に大雪となります。春から夏にかけては、日本海に低気圧が発達して入ると南よりの暖かく湿った空気が山脈越し、フェーン現象で高温となることがあります。

瀬戸内気候

日照時間が多く、降雨も少なく乾燥しやすく、夏と冬の気温差が大きいのが特徴です。

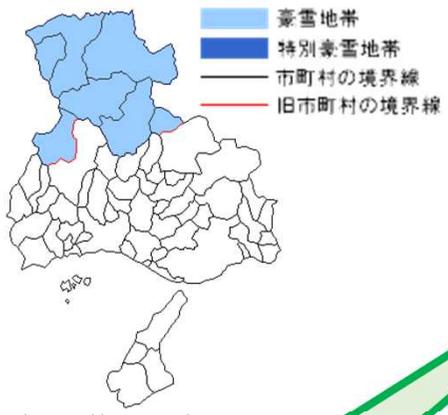
都市気候

人口集中・建造物の増加・緑地減少などによって生じる局所的な気候です。主な特徴として、大気汚染・高温・日射量減少・都市固有の風系の発生・湿度減少（乾燥）などがあります。



地域毎の気象特性の概要

冬季は典型的な日本海側気候区の特徴を示し、曇や雪の日が多く年間降水量の約31%が12～2月にかけて降ります。夏季には南よりの風にフェーン現象が加わり、ときには最高気温が37℃以上になることも珍しくありません。



<https://www.mlit.go.jp/crd/chisei/hyogo.html>

南東部と同じ瀬戸内気候区に属し、温暖・少雨が特徴です。特に冬季は晴天が目立ち、内陸の平野部では放射冷却効果が大きく、夜から早朝の冷え込みが強くなります。



年間を通じて温暖・少雨の瀬戸内気候区と、大都市特有の都市気候の特徴が現れます。雨が少なく湿度が低いため乾燥し、海岸に近いので暑さや寒さも比較的しのぎやすくなっています。特に冬季は少雨・多照が特徴ですが、梅雨期には大阪湾を北上する暖湿気流と六甲山地の影響で、局地的な大雨が降ることもあります。

瀬戸内気候区に属していますが、南部は紀伊水道を通じて太平洋に面しているため、暖候期には太平洋側気候区の特徴も現れます。年間を通じて温暖・多照・少雨ですが、梅雨期と台風期は太平洋から直接流入する暖湿気流の影響で大雨が降ることがあります。春先から梅雨期にかけては霧の発生も多くなります。

兵庫県の主な河川

北部

● 円山川

流路延長68km 流域面積1300km²

南部（南東部、南西部、淡路島）

● 加古川

流路延長96km 流域面積1730km²

● 市川

流路延長75.8km 流域面積528km²

● 揖保川

流路延長70km 流域面積810km²

● 千種川

流路延長67.6km 流域面積754km²



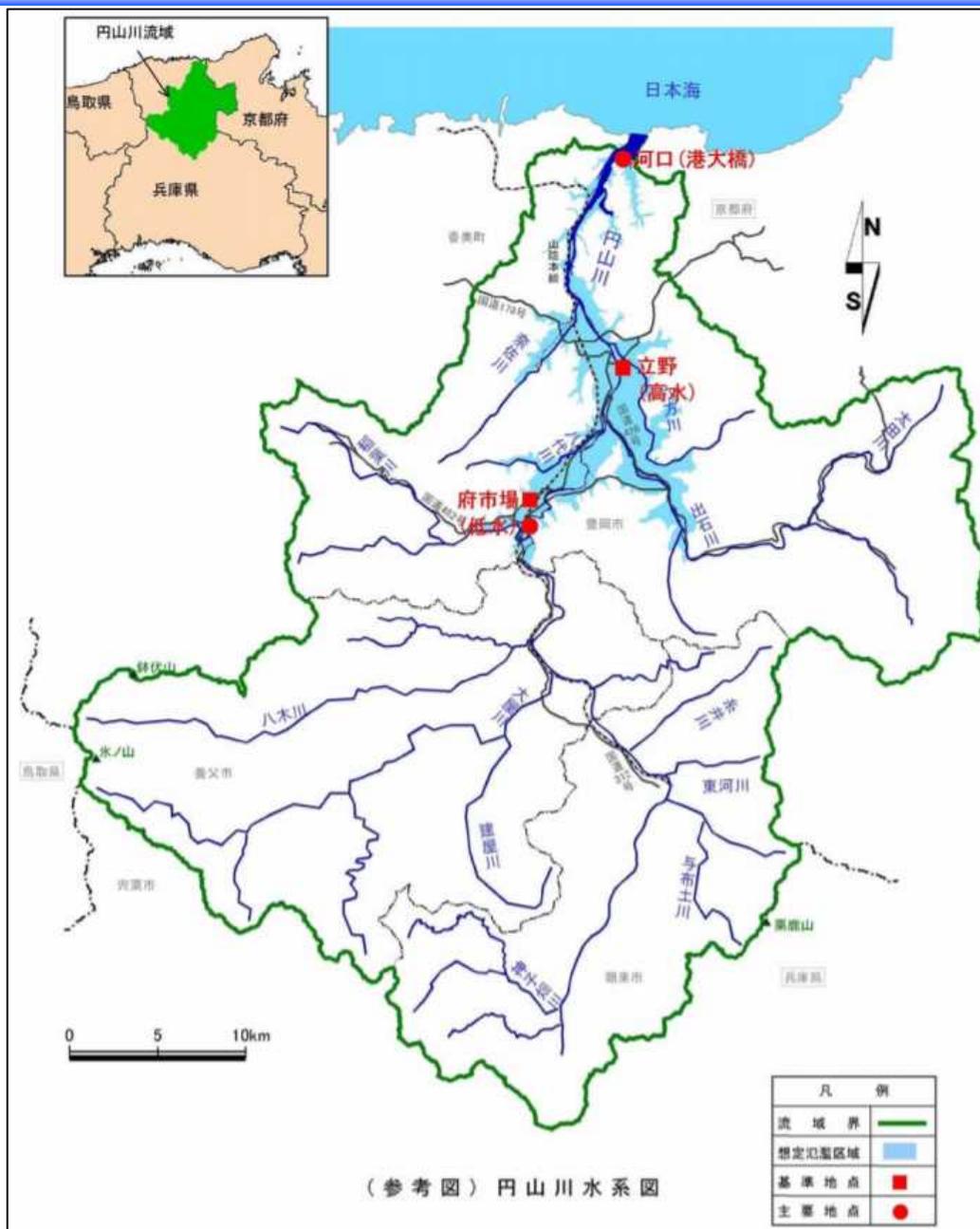
円山川水系円山川

出典：近畿地方地方整備局ウェブサイト

円山川は、源を兵庫県朝来市生野町円山（標高640m）に発し、大屋川、八木川、稲葉川等の支川を合わせて豊岡盆地を貫流し、豊岡市において出石川、奈佐川等を合わせ日本海に注ぐ幹川流路延長68km、流域面積1,300km²の一級河川です。

流域は、兵庫県の豊岡市、養父市、朝来市の3市からなり、但馬地方における社会・経済・文化をなしています。流域の土地利用は、山地等が約83%、水田や畑地等の農地が約11%、宅地等その他が約6%となっています。沿川にはJR山陰本線、国道9号、国道178号、国道312号、国道426号の基幹交通施設に加え、豊岡市までの延伸が計画されている北近畿豊岡自動車道が整備中です。さらにコミュニティー方式による但馬空港が開港し、大阪方面との利便性が向上しています。

また、流域内は山陰海岸国立公園や氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、日和山海岸や国指定天然記念物の玄武洞、城崎温泉、神鍋高原の他、出石城下町などの観光資源に恵まれ、京阪神を中心に数多くの観光客を集めています。下流部では地域を挙げて、国指定特別天然記念物のコウノトリを野生に戻す取り組みが進められ、円山川の豊かな河川環境を保全し、再生が始まっています。



加古川水系加古川

出典：近畿地方地方整備局ウェブサイト

加古川は、その源を兵庫県朝来市山東町と丹波市青垣町の境界にある栗鹿山（標高962m）に発し、丹波市山南町において篠山川を合わせ、西脇市において杉原川と野間川を、小野市において東条川、万願寺川を合わせ、さらに三木市において美嚢川を合わせながら播州平野を南下し、加古川市尾上町、高砂市高砂町向島町で瀬戸内海播磨灘へと注ぐ幹川流路延長96km、流域面積1,730kmの一級河川です。

加古川流域は、兵庫県の加古川市、小野市、西脇市、篠山市等の主要都市をはじめとする11市3町からなり、流域市町は上流部の丹波地域、中・下流部の東播磨地域に大別することができます。この地域の社会、経済、文化の基盤をなしています。

土地利用は山地が59%、農地が26%、宅地等が11%、その他が4%となっています。流域内の交通としては、山陽新幹線、JR山陽本線等の鉄道や、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、国道2号加古川バイパス、国道250号等の道路が加古川を横断しているとともに、JR加古川線、JR福知山線や北近畿豊岡自動車道、国道175号が加古川沿いに並行しています。さらに、河口部の重要港湾東播磨港は西側に隣接する特定重要港湾の姫路港とともに播磨臨海工業地帯の中核港湾であり、本流域は陸海交通の要衝となっています。



揖保川水系揖保川

出典：近畿地方地方整備局ウェブサイト

揖保川は、その源を兵庫県宍粟市の藤無山（標高1,139m）に発し、山間部を流下し宍粟市曲里地先で引原川と合流した後、伊沢川、菅野川、栗栖川などを合わせて播州平野を流下し、さらに林田川と合流した後河口付近で中川を分派し、姫路市網干区で瀬戸内海播磨灘に注ぐ幹川流路延長70km、流域面積810km²の一級河川です。

その流域は、たつの市をはじめとする3市2町からなり、土地利用は山地が84%、農地が11%、宅地等市街地が5%となっています。

流域内の交通としては、山陽新幹線、JR山陽本線、JR姫新線などの鉄道や、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、国道2号、179号、250号、太子竜野バイパスなどの道路が揖保川を横断しているとともに、姫路市と鳥取市を結ぶ国道29号が揖保川沿いに縦断しています。また、河口部の姫路港は特定重要港湾に指定されており、本流域は陸海交通の要衝となっています。

臨海部は播磨工業地帯の一郭として鉄鋼、化学などの重化学工業が集積しているほか、沿川ではうすくち醤油、手延べ素麺、播州皮革などの揖保川の清流や伏流水に依存した地場産業が現在も地域に息づいており、全国的にも名を馳せています。

流域は「瀬戸内海国立公園」に隣接し、流域内には「氷ノ山後山那岐山国定公園」や三つの県立自然公園が指定され、豊かな自然景観を呈しています。龍野は城下町として栄え歴史文化遺産をとどめており「播磨の小京都」と呼ばれているほか、童謡「赤とんぼ」の作詞で有名な三木露風の生誕地に因み「童謡の里」としても親しまれています。

